

誰かに教えたくなる 科学技術の話 89

近代以後に実現した 「首都移転」



東京大学名誉教授 月尾 嘉男

日本の古代には、飛鳥京、藤原京、平城京、難波京、長岡京など近畿地方一帯で頻繁に遷都が実施されていたが、桓武天皇が七九四（延暦一三）年に平安京に遷都して以来、一一八〇（治承四）年に安徳天皇を擁立した平氏による一年だけの福原京への遷都を例外として、一八六九（明治二）年に東京に遷都するまで約一〇〇〇年の長期の期間、平安京が日本の首都であった。

しかし遷都した東京に政治や経済が過度に集中し、巨大災害による首都機能の喪失や地価の高騰などの弊害が問題とされ、一九六〇年代から首都機能移転の議論が発生した。九〇年代には「栃木・福島」「岐阜・愛知」「三重・畿央」を候補とするほど議論は進展したが、具体策にはならなかった。しかし世界には二十世紀以後に首都を移転した国家はいくつも存在する。

キャンベラ（オーストラリア）

十五世紀にヨーロッパの帆船が世界に進出しはじめ、十七世紀初頭にはオーストラリアが発見されるようになる。一六八八年にイギリスの船長W・ダンピアが北西海岸に上陸し、一七七〇年にはイギ

リスの船長J・クックが東部海岸に上陸してイギリスの領有を宣言した。当初は囚人の流刑場所として利用され、十八世紀の八〇年間で一般の移民を大幅に上回る一六万人の囚人が移送されてきた。

広大な草原を利用したヒツジの放牧が主要産業になって一般の移民が次第に増加し、囚人の流刑は廃止となった。しかし十九世紀中頃に砂金が発見されたことを契機にゴールドラッシュとなって世界から人々が殺到し、人口は一気に一〇〇万人を突破した。このような情勢を反映し一九〇一年に六州により構成されるオーストラリア連邦が成立した。

この独立国家の首都は二大都市のシド

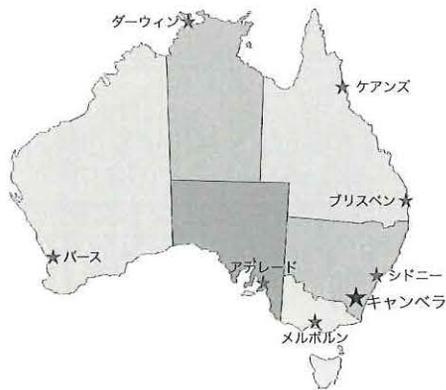


図1 キャンベラ

ニーとメルボルンの争奪合戦となって決着がつかず、中間にあるキャンベラを首都とすることに決定した(図1)。国際競技設計によって都市計画が策定され、一九二七年に連邦議会の建物が完成して正式の首都となり、先住民の「人々が集合する場所」という言葉からキャンベラと命名された。現在でも人口は四六万人程度で田園都市の風情である。

イスラマバード(パキスタン)

一九四七年にイギリスから独立した時点でのパキスタンの首都はカラチであった。国土の南端のアラビア海岸に古代から存在し、アレキサンダー大王も通過した歴史のある都市である。しかし一九五八年に第二代大統領になったA・ハーンは南部への人口と経済の過度の集中や国防の観点から問題であるとし、北部のラーワルピンディを臨時首都とし、その近郊に遷都することにした。

ラーワルピンディー帯は古代のインダス文明の周辺に位置し、石器時代から人間が定住していたという歴史があるが、当時は人口一〇万人程度の地方都市であった。さらに領土の帰属がインドと係争になっているカシミールに近接し、しか



図2 イスラマバード

も陸軍司令本部も存在している利点があった。そこで都市計画分野で有名であったギリシャのC・A・ドキシアデイスに全体計画の策定を依頼した。

「イスラムの都市」という意味の首都イスラマバードはラーワルピンディの北西に隣接した約九〇〇平方キロ(東京都二十三区の一・四倍)の原野に計画された(図2)。首都であるから人口は急速に増加し、現在、首都だけの人口は約一〇万人であるが、ラーワルピンディと一体とした首都圏域の人口は約三五〇万人であり、パキスタンで第三の規模の都市になっている。

ブラジリア(ブラジル)

北米の先住民が中米を經由して現在のブラジルの地域に到達したのは八〇〇年前と推定されているが、西欧社会との接触は一五〇〇年頃に到来したポルトガルの人々が最初である。以後、ポルトガルに支配されてきたが一八二二年に独立し、ブラジル帝国を經由して一八八九年にブラジル共和国になった。以後、様々な政変を經由して一九八五年に現在の体制に移行している。

当時の首都は大西洋岸のリオデジャネイロであり、それ以外のサンパウロ、サルヴァドル、レシフェ、ポルトアレグレなど主要な都市や産業も沿岸地帯に集中しており、国家の発展のためには内陸へ



図3 ブラジリア

の進出が必要とされた。そこで一九六〇年に海岸から一〇〇〇キロ内陸にあり、標高一〇〇メートルのブラジル中央高原に首都を移転することになり、ブラジリアと名付けられた(図3)。

全体計画や建物設計はフランスで誕生してブラジルの国立美術学校を卒業したL・コスタとブラジルで誕生したO・ニーマイヤールという建築家が主導し、首都には二人が設計した壮大な建物が存在している。当初は娯楽や飲食などの施設が不足で多数の人々は週末になるとリオデジャネイロなどに帰還していたが、現在では娯楽施設も文化活動も豊富でブラジル有数の文化都市になっている。

アブジャ(ナイジェリア)

アフリカ中部の大西洋岸にあるナイジェリアには紀元前五世紀から独自の文化が存在していたが、十五世紀になってポルトガルが大西洋岸にラゴスを建設し奴隷貿易の拠点とした。十九世紀はイギリスが支配していたが、一九六〇年に独立した。しかし数百の民族が存在しているため一九六七年から民族抗争(ビアフラ戦争)が勃発、七〇年に停戦になったものの火種は残存していた。



図4 アブジャ

数百の民族のうち三大民族は北部のハウサ族、西部のヨルバ族、東部のイボ族であるが、首都のラゴスがヨルバ族の勢力圏内に位置することが問題となり、一九九一年に三大民族の勢力範囲の中央になるアブジャに移転することになった(図4)。その首都の計画を世界的建築家である丹下健三が依頼されたが、丹下は筆者の恩師である関係で現地に出張して首都の交通計画を手伝うことになった。ところが実情を調査してみると、現地は毒蛇の巣窟のような原野であることが判明し、先方の担当大臣とパリで会合することにした。中心地域は京都のように格子状の道路が整備され、その終点に国

会議事堂が建設され、背後にはマウンテン・アソという岩山が借景となっている見事な構成であるが、食料や生活物資は遠方から輸送され、治安も万全ではなく生活しにくい首都のようである。

アスタナ(カザフスタン)

一九九一年にソビエト連邦が崩壊して一五の共和国が独立したが、その一国がカザフスタン共和国である。二七二万平方キロ(日本の七倍)という一五カ国で第二の広大な地域に一九八〇万人が生活している。その時点で首都はアルマトイであったが、国土の南端の国境付近であるため、中央付近にあるアクモラ(意味は聖地)をアスタナ(意味は首都)に改名し、一九九七年に遷都した(図5)。

その都市計画は一九九八年に国際競技設計になり、日本人建築家の黒川紀章の提案が採択された。石油生産が世界三位である経済の実力から、壮大な都市建設を推進しており、中央にある高さ一〇五メートルのバイテレク(意味はポプラの高木)タワーという高塔がシンボルとなり、壮大なモスクは当然として、博物館、図書館、オペラハウスなど以外に、平和のピラミッドも建設されている。

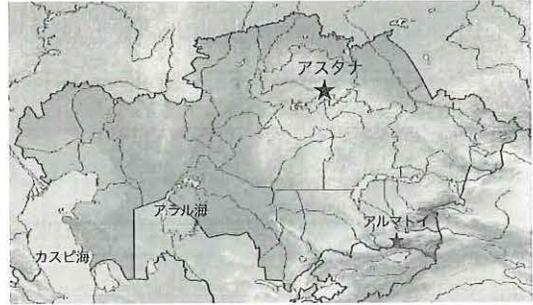


図5 アスタナ

首都は二〇三〇年に当初の計画が完成する予定であるが、順調に進展しており、遷都した時点の人口は二七万人であったが、現在では全体の七％に相当する一四〇万人の人々が生活する都市になり、かつての首都アルマトイの二二〇万人に次ぐ第二の都市になっている。民族構成も当初は二割以下であったカザフ人が現在では八割に増加して、名実ともにカザフスタンの首都となっている。

ヌサンタラ (インドネシア)

インドネシアは太平洋戦争中、日本が

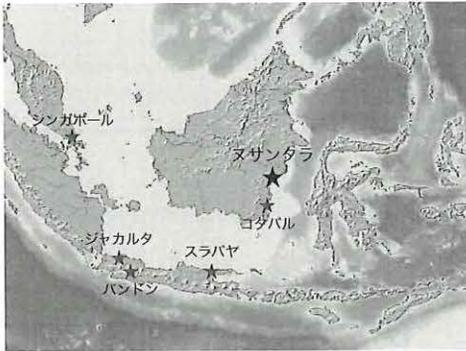


図6 ヌサンタラ

統治していたが、一九四五年の終戦とともに独立してインドネシア共和国となった。一時は旧宗主国のオランダがジャカルタを占拠したが、独立戦争によってオランダは撤退し、一九四九年にジャカルタが正式の首都となった。しかし、人口が一〇〇〇万人を突破して世界有数の人口密度の都市となったため、二〇一九年に首都移転が閣議決定された。

公式の首都はジャカルタのままにして行政機能のみを移転する方法と、すべての首都機能を移転して完全に遷都する方法が検討されたが、後者に決定された。

場所はジャカルタから北東に一二〇〇キロの彼方にある日本の国土面積の二倍にもなるボルネオ島(インドネシアの呼称はカリマンタン)の東部に決定され、新首都名は群島を意味する「ヌサンタラ」となった(図6)。

二〇二二年から工事が開始され、昨年八月にインドネシア独立七九周年を祝福する式典がヌサンタラで開催され、ジョコ大統領はインドネシアがジャワ中心の国家から多数の島々からなる全土が発展するための契機となると演説し、実際に閣僚会議もヌサンタラで開催されている。すでに省庁は順次移転を開始しており、インドネシア独立一〇〇周年になる二〇四五年に移転完了の計画である。

今号で紹介した以外に第二次世界大戦以後だけでも、マレーシア、ミャンマーなどで首都移転は実施されている。理由は様々であるが、新規に都市を建設して移転する場合には膨大な予算が必要で、経済混乱の原因になる場合もある。人口が減少し経済も停滞する日本では、一九六〇年代のような首都移転構想は困難で、東京を改造しながら国家を維持することが妥当な戦略である。